

## 新潟産大附属高校野球部 甲子園出場・勝利 おめでとうございます

藤村 健夫<sup>注1)</sup>

2024年夏、甲子園を目指す高校野球新潟県大会。新潟産業大学附属高校野球部（以下 産大附属）は、新潟明訓高校、日本文理高校、中越高校、帝京長岡高校と、強豪校を次々と撃破して甲子園初出場、さらに甲子園一回戦でも花咲徳栄高校（埼玉）に勝利しました。おめでとうございます。

### 【2024年 夏の記憶】

7月26日(金)

産大附属、甲子園出場決定。夜は柏崎花火を満喫。

7月31日(水)

<透析室にて>

鈴木ME<sup>注2)</sup>「先生、甲子園行きますか？」

藤村「8月8日(木)は外来だし、8月10日(土)から長谷川先生が夏休みだし、行けるのは8月9日(金)だけだなあ。」

8月4日(日)

<組み合わせ抽選会>

大会第3日8月9日(金)第一試合決定。産大附属・平野翔太主将、私が甲子園に行ける唯一の日、8月9日を引き当ててくれました。ありがとう!!

8月5日(月)

<内科 朝ミーティング後>

藤村「長谷川先生<sup>注3)</sup>。8月9日甲子園に行ってもいいでしょうか？」

長谷川「は？何の試合？」

藤村「(阪神タイガースではないし、柏崎高校でもないし、)産大附属です。」

長谷川「は？テレビじゃダメなの？」

<透析室にて>

藤村「山田さん<sup>注4)</sup>、私、8月9日甲子園行くからお休みさせて。」

山田「え～っ、PTA（透析シャント拡張術）の患者さんどうするんですか？」

藤村「これから電話して、おわびして日程変更お願いするわ。」

山田「はあ～っ、1回戦勝ったら、また2回戦も行くなんて言い出すんじゃないでしょうね。」

藤村「言わない。来週は長谷川先生夏休みだし一所懸命留守番する。お願いだから、甲子園1回戦行かせて。」

<西6階病棟にて>

藤村「横関さん<sup>注5)</sup>、私、8月9日甲子園行くからお休みさせて。」

横関「先生、いつもがんばってるから、たまにはお休みしてください。お土産持ってますね。」

<病院内ファミリーマート>

アルプス席チケット購入、発券。院内ファミマとても便利。

8月7日(水)

夏の甲子園 開幕

8月8日(木)

外来終了後、新幹線で大阪へ移動。ホテル泊。

8月9日(金)

初戦の相手 花咲徳栄高校（埼玉）は、2017年夏の甲子園の優勝校。4番ショート石塚裕惺選手はU-18日本代表チームの4番を任されているドラフト指名候補。（9月18日時点で、同選手を含め同校の3名がプロ志望届を出している。）。勝つのは難しいと思われましたが、、見事に勝ちました。野球あるあるですが、強いと思われているチームが、いつでも打てると思って強振しているうちに、ひっかけたゴロの山になり、こんなはずではない、おかしいおかしいと思っているうちに、試合が進行する展開。産大附属の勝ちパターン

ンに入っていました。

オール柏崎のプラスバンド、前日1時間半音合わせただけで、素晴らしい演奏でした。野球にあまり興味がない産大附属の女子生徒達が、応援席を離れ、売店前でずーっと涼んでいました。それもまたよし。勝った瞬間の、選手のジャンプ。アルプス席の歓喜。甲子園の青い空、白い雲、夏の陽射し。青春はいいな。

### 【野球愛】

新潟産業大学理事・学長を務められた故広川俊男先生<sup>注6)</sup>。その就任時（2007年1月）から、「新潟産大附属高校は、5年以内に東大合格者1名、甲子園出場を達成する。」と目標を掲げていたそうです。その一つが実現しました。

『柏崎から甲子園へ』という地元野球界の思いを背負って、監督を引き受けられた吉野浩監督。「柏崎出身の野球選手が、大学卒業後、地元に戻ってきて、野球の指導者になれるような環境を作りたい。」という野球愛に感服しました。柏崎リトルシニア（中学硬式野球チーム）の教え子たちが、日本文理高校や北越高校に進み、大学卒業後、柏崎に戻り、産大附属の教員・コーチとして、吉野監督を支えています。また吉野監督が外部監督であるため、学校内では武本克彦先生<sup>注7)</sup>が全体を把握した上で、生徒指導を担っており、甲子園滞在中も選手の日常を見守っていたそうです。たくさんの野球愛が結集された甲子園でした。

### 【大事な追記】

吉野監督就任前、部長・コーチ・監督を務めておられた松尾一基先生<sup>注8)</sup>は、当時名古屋大学総長であった松尾清一先生<sup>注9)</sup>のご子息で、私は、産大附属野球部の皆様にご高配賜り、松尾清一先生が柏崎にいらっしゃった際に、お会いして御著書にサインをいただく幸運に恵まれました。ありがとうございました。松尾清一先生は、「高校野球と長渕剛の歌をこよなく愛する。」と公言されていて、日本腎臓学会を主催した際には、「帝国大学たるものは、、、」と熱い会長講演をされた

素敵な先生です。野球が見つないでくれた縁に感謝します。

長谷川伸先生はじめ、職場の皆様、急な休みをいただき、ありがとうございました。お忙しい中、取材させていただいた皆様、ありがとうございました。万全を期しましたが、もし事実関係に誤りがあれば、全て筆者の責任です。

注1) 元柏崎高校野球部主将「高校野球とさだまさしの歌をこよなく愛する。」

注2) 当院臨床工学技士  
元新発田中央高校野球部スラッガー

注3) 当院副院長 腎臓内科部長  
大学時代合気道部主将・三段  
走るのが苦手で球技断念

注4) 当院透析室師長  
元小千谷高校野球部女子マネージャー

注5) 当院西6階病棟師長  
元柏崎高校陸上部800m選手

注6) 柏崎高校柔道部卒  
東京教育大学（現筑波大学）水泳部卒

注7) 産大附属常勤講師・野球部顧問  
元柏崎高校野球部主将  
元短大付属（現産大附属）野球部監督、  
元柏崎高校野球部監督

注8) 名古屋たちばな高校野球部顧問  
ニューヨーク生まれ 中京大中京高校野球部卒 中京大学野球部卒

元産大附属高校社会科教員・野球部長・監督  
注9) 東海国立大学機構長 元名古屋大学総長  
元腎臓内科教授

